

令和6年度 第2回名取市地域包括支援センター運営協議会 概要報告書

令和6年12月12日

名取市長 山田 司郎 様

健康福祉部介護長寿課長寿健康係
保健師 大竹 なぎ

令和6年度第2回名取市地域包括支援センター運営協議会を開催しましたので、その概要を下記のとおり報告いたします。

記

<日 時> 令和6年11月28日(木) 午後2時45分から午後4時00分

<会 場> 名取市役所 6階第1会議室

<出席者>

委員：池田会長、千葉副会長、三浦委員、飯倉委員、高橋委員、丹野委員、
田端委員、洞口委員

事務局：安倍部長、中山次長兼課長、高橋課長補佐、小畑係長、
山崎技術主幹、佐藤技術主幹、相澤技術主査、大竹

傍聴者：岩沼市役所 介護福祉課 大村 一義、小林 慎

<内 容>

1. 開 会
2. あいさつ 会長：池田 陽一

3. 議事

- (1) 令和5年度地域包括支援センター事業評価について 資料1 (事務局より説明)
訂正事項：資料1の10ページの〈点数化〉表について合計点177満点が166満点に
訂正をお願いしたい。

委 員：虐待防止のネットワーク構築をするにあたって、町内会、民生委員、医師、地域包括支援センターも併せて地域ケア会議を行っていると思うが、データ管理についてはどのようになっているのか。また、地域との共有や名取市との共有は行われているのか。情報共有について、地域包括支援センターと地域でどのように共有しているのか教えていただきたい。

事務局：高齢者虐待については個別事例ということになるため、各地域包括支援センターと市の方で虐待発生の要因や、対応についてその都度検討し対応をしている。それらを年度でまとめて県の方に報告しているため、データは出ている。今年度から個別のケースについてまとめていこうと、社会福祉士部会と市の方で共有しながらそれを作り上げている。今後に向けては、それぞれ圏域外のところの状況を共有していく仕組みづくりに取り組んでいるところである。

委 員：高齢者虐待という議題は、地域ケア会議になじまないのではないかと。

事務局：虐待については個人情報が多いため、委員の言う通り個人のケースは会議になじまない。個人のケースについてではなく地域住民に対して、こういった虐待があるということや、虐待のサインや気にしていただきたいことを伝えている。例えば喧嘩している声がよく聞こえるなど、気になる住民がいた時に、住民間の見守りという

ことで市や地域包括支援センターなどの相談機関に相談していただきたい。気になる住民を地域全体で見守るということをテーマに地域ケア会議を行っていきたいと考えている。

委員：よくわかった。民生委員なども地域で活躍しているため、情報がクローズドされた中でフォローアップしていくという風にしていった方がよいのではないかな。やり方をもっと工夫してみてはどうか。

委員：委員の意見に賛成で、高齢者虐待について医療・介護と同じ括りで地域ケア会議を行うのではなく、違う土俵でやった方がよいのではないかな。市としてそこを議論していただければと思う。デリケートな問題なので、別の土俵で開催してもよいのではないかな。

事務局：委員からの意見を承り、個人のことが出てくるような場合は、関係者のみの会議とする。広く周知したい内容については、地域ケア会議を開催するなど分けて取り組んでいく。

委員：3ページの⑥防災への対応について、大体うまくいっているということだが、地域防災と、地域包括支援センターで考えているBCPがうまくかみ合っているのか。防災マップは共有できているのか。地域の特性を踏まえて地域包括支援センターが防災マップを作っているのか。こんな感じになっていると見せていただきたい。◎などそんな単純ではないのではないかな。

事務局：事業所内でBCPの計画を立てているかという評価項目になる。事業所が被害を受けた際に、対応について計画を立ててマニュアル化しているかという確認をしている項目となる。特記事項として記載はしているが、法人ごとにBCPは立てているが、地域包括支援センター内で細かな計画作成までは至っていない地域包括支援センターが多かった。今後そこを重点的に取り組んでいきたいということであった。また、各地域包括支援センターごとに災害時に援護が必要な方のリストを作成し、災害時に対応できるように考えているところである。

委員：まだ地域防災とは完全にリンクしていない状態で、地域包括支援センターとして、災害があったときにできるだけ早く業務再開に向け、アクションが取れるよう準備をしているということでしょうか。

事務局：BCPについて◎がついている地域包括支援センターについてはきちんとマニュアルが出来上がっている。被災し職員が地域包括支援センターに向かえない際に、同法人の職員で対応し、バックアップをする体制を整えている地域包括支援センターもあった。まだそこまで体制が整っていない地域包括支援センターは○ということであった。

委員：今回の評価について文章上では、BCPを作成していれば◎になる。今後はBCPについて、どこまで踏み込んだ内容とするか吟味しないといけないと思う。

委員：今回は、物品等の準備は別として、マニュアルだけ出来ていれば評価として○で、BCPの第一ステップということであればよい。評価の定義をしっかりとしていれば良いと思う。

委員：評価基準にそって判断はされている。そこまで踏み込んだBCPとなると、地域包括支援センターで全てを抱えることになる。6人ではできない。

委員：さらに踏み込んだ防災マニュアルの評価項目を検討するにすることで膨大な量になってしまう。今回は、基準に基づいて評価している。評価項目の定義さえしっかりとしていれば良い。

委員：事業評価するにあたって壮大な能力を使われていることに敬意を表したい。ただ、令和5年度の評価がいま示されている。評価のための評価ではない。評価は、次年度の事業の計画の手助けとなるものである。もっと早く示していただけるとよい。また、4ページの虐待防止のためのネットワーク構築について自己評価も市評価も悪い。よって、これが令和6年度において、市と地域包括支援センターが力を入れて取り組んでいくべきことなのかと思う。自己評価が遠慮気味だったのか、逆の過大評価かもしれないが、評価基準に沿って行っているため、次の改善のために評価を行うのだと振り返る必要がある。

事務局：令和5年度の評価について本来は第1回目に実施すべきであった。コロナ禍の影響もあり、地域包括支援センターでも通常業務ができないということや、市の方も地域包括支援センターに出向けないということがあり、事業評価ができなかったという事情はある。しかし、評価を活かすために年度が終了後、すぐに評価を行い次年度に活かしていく。虐待防止については、各地域包括支援センターで地域ケア会議の議題としてあげにくい側面もあり、なかなか周知が進んでいない。今年度、市の方から虐待防止のためのパンフレットを配布して周知してもらうようにしている。南地域包括支援センターでは住民に高齢者虐待に気付いていただくための地域ケア会議を行っていたため、南地域包括支援センターの良い取り組みを各地域包括支援センターに伝えていければと思う。

(2) 令和6年度地域包括支援センター事業中間報告について 資料2 (事務局より説明)

委員：2ページの相談内容について、一番多い介護保険の問い合わせの内容を細分化した方がよい。次回以降、項目別にしていただければアクションがとりやすいと思う。

事務局：介護保険の問い合わせでは、代行申請の割合が多い。介護保険の中身について詳細を分けた方がよいか検討していく。

委員：3ページの4(3)の講演会について、中部包括だけ極端に回数が少ないのは、新規で立ち上がったこと以外に何か理由があるのか。

事務局：中部包括支援センターは開設から3年目であることが大きいと思う。講演会について中部包括支援センターと検討していきたいと思う。

委員：中部包括支援センターはいろいろなことをしている。評価の数字に反映されないこともあり、地域に溶け込んで活動をしている。地域住民は感謝している。

4. 閉会

次回の開催予定は2月中旬を予定しております。詳しい日程等は、1月中旬を目途に通知致します。